

「阿蘇の草原キッズになろう！」

- [主 催] 国立阿蘇青少年交流の家
[共 催] 阿蘇草原再生協議会 草原環境学習小委員会
[後 援] 熊本県教育委員会・阿蘇市教育委員会
[期間・参加者]

〈秋 編〉 平成25年10月10日(木)～10月11日(金) 1泊2日
阿蘇市立宮地小学校5年生61名、引率教諭6名
〈野焼き編〉 ①平成26年3月4日(火) 野焼き
阿蘇市立坂梨小学校4、5年生26名 引率教諭2名
阿蘇市立古城小学校5年生17名 引率教諭1名
②平成26年3月6日(木) 野焼き
阿蘇市立阿蘇小学校5年生51名 引率教諭2名
③平成26年3月12日(水) 野焼き ※実施予定
阿蘇市立宮地小学校5年生61名 引率教諭2名

[実施場所] 国立阿蘇青少年交流の家、町古閑牧野、小堀牧野

[講 師] 町古閑牧野 組合長 市原 啓吉 氏
小堀牧野 組合長 田島今朝信 氏
一般財団法人 自然公園財団 阿蘇支部 木部 直美 氏

1 趣 旨

〈秋編・野焼き編〉

阿蘇の草原環境の現状を学ばせるとともに、草原維持活動をととして、草原環境保全への意識を高める。

2 目 標

〈秋編・野焼き編〉

- 草原再生にかかわる体験活動や学習をととして、阿蘇の草原環境の現状と課題を理解させるとともに、草原環境への興味・関心を高めることができる。
- 本事業をととして、阿蘇の草原を守っていく方策について、自分の考えをもつことができる。

3 事業展開

(1) 研修プログラム

〈秋 編〉※事業前に、事前学習を実施した。

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
10月10日 (木)			草原散策 町古閑牧野 5年1組	バス移動	草原散策 波野トラス ト地 5年2組	バス移動	昼食	開会式	部屋へ移動	草泊まり作り体験	夕食	入浴	草原環境学習	就寝準備	就寝	
			草原散策 波野トラス ト地 5年2組		草原散策 町古閑牧野 5年1組											
	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
10月11日 (金)	朝のうたい	朝食	活動準備	えさやり体験 赤牛への	移動	新聞にまともな 心に残ったアートを	閉会式	昼食	解散							

〈野焼き編〉※事業前に、各学校で、事前学習を実施した。

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
3月4日 (火)			学校出発	移動	松明作り	野焼き体験	ふりかえり	移動	学校到着							

(2) 目標達成のための手立て

① 草原学習小委員会との連携

秋編・野焼き編ともに草原環境学習小委員会と協働で実施した。草原学習小委員会でプログラムの内容や実施時期・場所等について協議を行った。

具体的な手立てとして、活動プログラムの中に、職員と協議会委員が演じる学習劇を取り入れることで、子どもたちが草原について学習しやすいものにした。



草泊まり作り体験

② 学校との連携

秋編では阿蘇市内の小学校1校、野焼き編では阿蘇市内の小学校4校と連携を図って実施した。草原学習小委員会で協議したプログラムを事前に学校へ出向いて説明を行い、活動時間の設定など学校側の意見がプログラムの中に十分反映されるようにした。各校とも教育課程内で実施することができた。



火消し棒作り

③ 阿蘇の草原環境の現状と課題の理解と、草原環境への興味・関心を高めるための工夫

秋編・野焼き編ともに単なる体験活動で終わらないために、事前学習を取り入れた。パワーポイントを使ったり、クイズ形式で子どもたちに草原に関する質問を行ったりしたことは、子どもたちに阿蘇の草原環境の現状と課題の理解を促すとともに、阿蘇の草原に対する興味・関心を高めるものとなった。

また、草泊まり作りや火消し棒作り・野焼きなど実際に



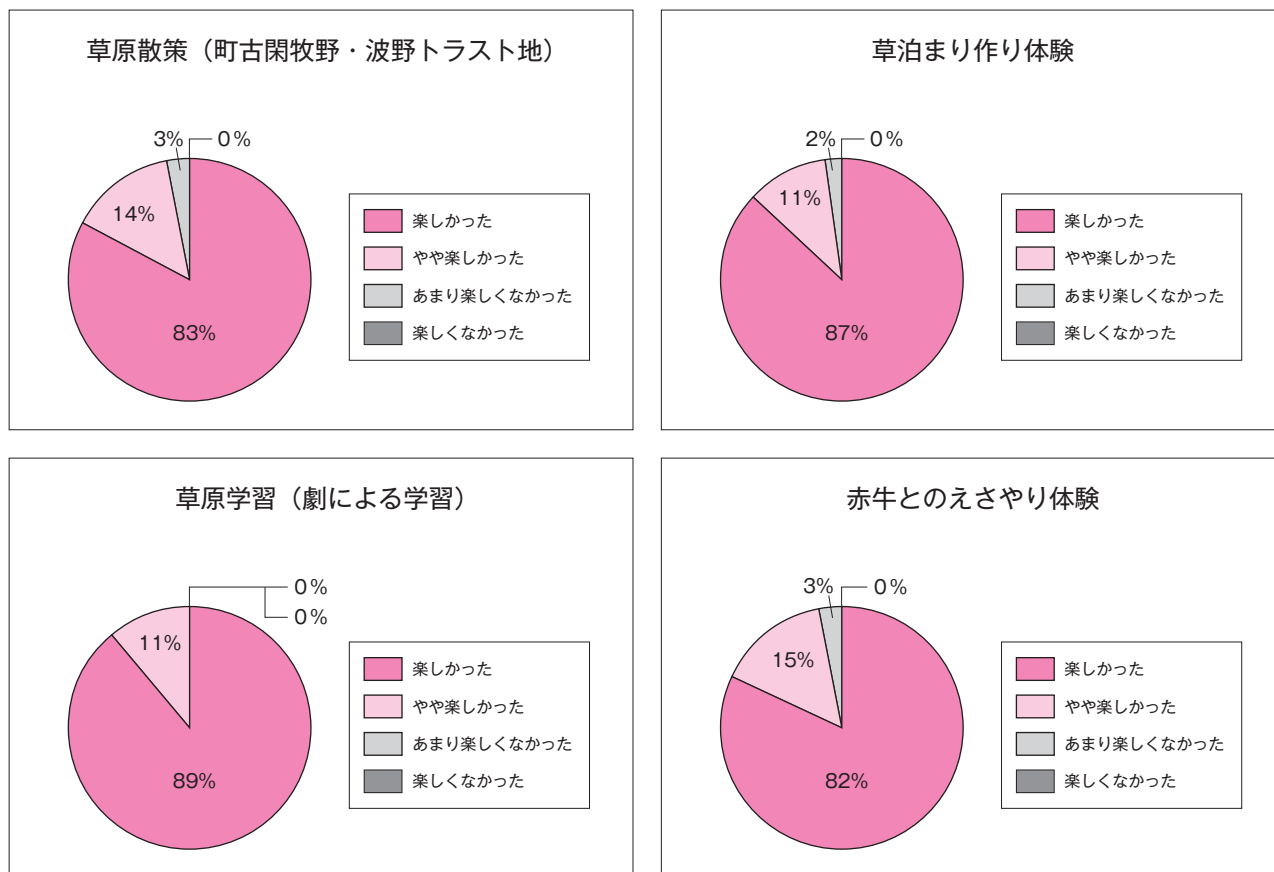
野焼き体験

子どもたちに体験させる活動を取り入れることにより、草原環境への興味・関心をより一層掻き立てるようにした。

4 結 果

参加者の事後アンケートの結果は、以下のとおりである。

〈秋 編〉



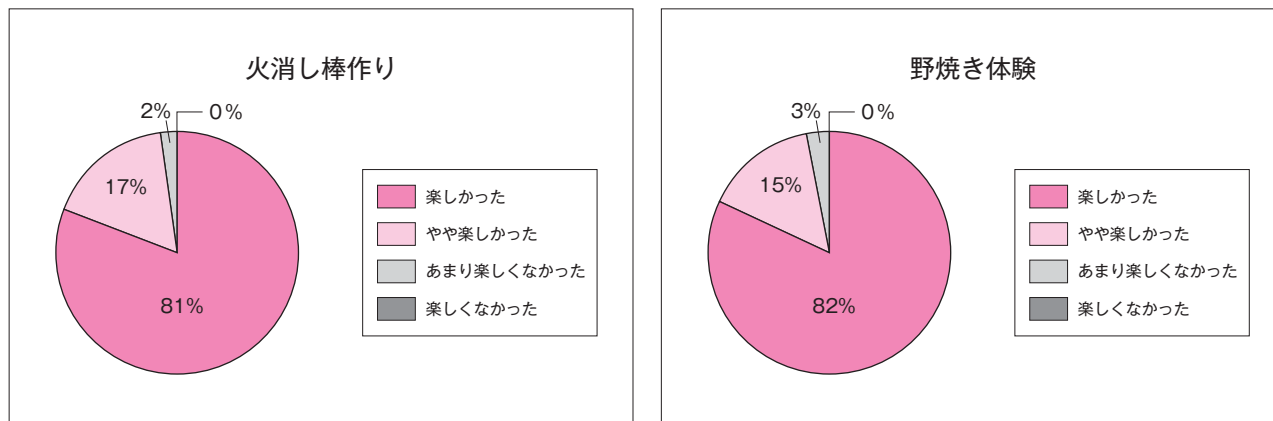
【参加者の声】

- 自分の知らない植物を見ることができてよかった。
- 草を運んだり、編んだりする活動に苦労しながらも、クラスで協力して作りあげたことが嬉しかった。
- 昔の人が作り上げたことに驚きを感じた。
- 草原をもっと大切にしていきたい。
- これからも草原を未来に残していきたい。
- シカの鳴き声が聞けてうれしかった。



赤牛へのえさやり体験

〈野焼き編〉



【参加者の声】

- みんなで協力して、火消し棒をうまく作ることができた。
- 野焼きを体験して、野焼きを行わないと草原は維持できないと思った。
- 野焼きの中で火をつけることが楽しかった。大人になったら野焼きに参加したいと思った。

5 成果と課題

(1) 成 果

〈秋編・野焼き編〉

阿蘇市内の環境保全にかかわる団体と連携することで、「草泊まり作り体験」、「赤牛へのえさやり体験」等、児童にとって充実した活動プログラムを提供することができた。このことは、「草泊まり作り体験」で、汗をかきながらも、一生懸命に声をかけ合いながら頑張っている姿や「赤牛へのえさやり体験」で、牛にえさを食べてもらったとき、にっこりと笑っていた様子から伺える。

事前学習を実施することにより、当日の活動への意欲付けや安全指導等の充実を図ることができた。子どもたちの環境保全に対する意識の高まりは「草原を大切にしたい。」や「草原について学習を深めていきたい」といった児童の感想からも伺える。

(2) 課 題

〈秋編・野焼き編〉

将来、子どもたちが草原を守る担い手となるためにも、草原環境学習小委員会等としっかりと連携を取り合いながら、プログラムの内容充実に努め、市内小学校に広報する必要がある。

野焼きは、天候等で実施日が左右されるので、事前に学校や阿蘇グリーンストックなどとの調整を段取りよく行っていくことが大切である。